

平成26年度 課外授業講師派遣 活動レポート

第1回 小矢部市立石動中学校

6月10日(火)、林和夫氏(朝日建設(株)取締役社長)が小矢部市立石動中学校において、2学年125名を前に、「生きること、学ぶこと、働くこと」と題して課外授業を行った。

林社長は、まず、東日本大震災で多くの尊い人命が失われたこと、また、自身の介護経験のなかで看護師から言われた「人間が活着していることには必ず意味がある」という言葉に感銘を受けたことを紹介し、「命は自分が使える時間である。ただ生きるのではなく、どう生きるかが大切」と命の尊厳・生きることの大切さを訴えた。

続けて、能力は才能×経験×意欲×考え方の掛け算であるとし、イチロー選手の「結果も大事だけど、プロセスのほうが大切。ベストを尽くすための準備を怠ったことはない」との言葉を挙げ、プラス思考の考え方が最も重要であると語った。

次に、「建設工事を通じて世の中に役に立つ

こと」が自身の理念・夢であることを紹介するとともに、「働くことは端(周りの人)が楽になること」であると説明し、「働くのは自分のためではなく、人や地域社会のために役立つことだ」と力説した。

さらに、「毎日1パーセント多く努力すれば、1年後には37.8倍の成果を挙げることができる。逆に、毎日1パーセント努力を怠れば、1年後にはわずか3パーセントしか残らない」とし、日々の積み重ねの重要性を熱く語った。

最後に、DREAMS COME TRUEの曲「何度でも」を流しながら、「気の持ち方次第で困難は乗り越えられる。限界を作らずに挑戦してほしい」とエールを送り、授業を締めくくった。



「プラス思考で考える」と話す林社長

第2回 富山市立堀川中学校

6月25日(水)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)と遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長)が富山市立堀川中学校において、2学年318名を前に課外授業を行った。

牧田社長は、「なぜ働くの?」と題して、授業を行った。

冒頭、レストランを例に挙げ、「たった1人の従業員の失敗で食事の味が悪くなったとしても、お客さんは店全体に悪い印象を持ってしまう。従業員が力を合わせて、一丸となって店をつくりあげることが大事」と述べ、間もなく始まる「社会に学ぶ14歳の挑戦」での現場実習には、『自分は従業員のひとりである』という自覚と責任を持って臨むよう、呼びかけた。

続いて、「今、勉強しているのは、将来、社会に出てしっかり生きていくため」であり、「勉強したことは、いずれ社会に出た時に必ず役に立つ」と力説し、一生懸命に勉強することの大切さを訴えた。

そして、「学生時代に勉強することと、大人になって社会に出て働くことは『人間が成長す

る』という意味では同じ。成長するためには、嫌だと思ふことを我慢してやる。それができるようになれば、必ず自分の成長につながる。努力して壁を乗り越えれば、人は絶対に成長する」と語りかけ、『働く』とは、生きていくために自分が成長し続けることであり、人間形成をすること」と説くと、生徒たちは、真剣な表情で聴いていた。

最後に、家庭や社会に限らず、人と接するときには、心の中に「for me」よりも「for you」の気持ちを多く持つことを心がけるようアドバイスして、授業を締めくくった。



「努力すれば、人は成長する」と牧田社長

遊道社長は、「アンテナを張って『天分』を見つけよう!」と題して、授業を行った。

まず、「社会に学ぶ14歳の挑戦」が始まるのを前に、「お世話になる会社が、誰のために、何のために、どんな仕事をしているかを社員の方に聞いてほしい」、「たとえ数日間であっても、社員になりきってほしい」と、現場実習に向けた心構えを説いた。

続いて、生徒に「世の中に、人の役に立たない仕事はない」、「仕事をした瞬間に、それは誰かの役に立つことになる」と語り、「せっかく人の役に立つなら、仕事を好きになって、楽しんでほしい」、「人の役に立てることに喜びや嬉しさを感じ、楽しむ」、最終的には「その楽しみを『働きたい』や『生きがい』にしてほしい」と熱く訴えた。

さらに、「自分は、人の役に立つために生ま

れてきたこと」、「自分が活着していることの価値を自分自身で気づき、見出してほしい」と述べた。

最後に、「すべての人は『天分』を持っており、自分の『天分』に気づいたのは3年前。『天分』に気づく時期は人によって異なり、高校生の時、大学生の時、社会人になってからなどさまざま。常に、素直な、元気な、真剣な、正直な、一生懸命な心でアンテナを張って、できるだけ早く自分の『天分』を見つけ、人生を成功させてほしい」とエールを送り、授業を終えた。



「自分の価値に気付こう」と語る遊道社長

第3回 高岡市立戸出中学校

7月22日(火)、浦山哲郎氏(学浦山学園理事長)が高岡市立戸出中学校において、2学年136名を前に、「『かなえる力』を磨く」と題して課外授業を行った。

浦山理事長は、まず、吉田松陰の名言『夢なき者に成功なし』を挙げ、「夢は元気の源であり、心の酸素である。人間は夢なしでは生きてはいけませんが、自分の夢は周りの意見に左右されないようにすることが大切」と語った。

続いて、宝塚歌劇団の伝説の教えである『ブスの25箇条』を紹介し、「笑顔がない、お礼を言わない、自信がないなどのブスの25箇条を自分に当てはめ、気にかけて、問いかけることで、心の大きな人間になることができる」と述べ、「人の体の大きさは倍も変わらないが、心の大きさは10倍にも100倍にもなる。相手を想う気持ちやいたわりの気持ちを栄養にして、心の大

きな人間になってほしい」と訴えた。

そして、「人が志を立てるには、これまでの自分を変えることが重要であり、整理、整頓、清掃、清潔、しつけといった生活習慣を整えることが必要である。これは簡単なことではないが、誰かのおかげで生活していることを理解する大切な行動である」と説いた。

最後に、「志を立てるのに遅すぎるということはない。何でもうまく行くことばかりではないが、『あわてず、あせらず、あきらめず』の気持ちを忘れずに、自分の夢をかなえてほしい」とエールを送り、授業を締めくくった。



「夢は何？」と問いかける浦山理事長

第4回 立山町立雄山中学校

9月17日(水)、山野昌道氏(㈱チューリップテレビ常務取締役)が立山町立雄山中学校において、2学年247名を前に、「人生を楽しく生きる3つのコツ」と題して課外授業を行った。

山野常務は、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を控えた生徒たちに、「働くことの意味を問いかけた。生徒たちの『お金を稼ぐため』『生きるため』『社会に貢献するため』などの言葉を受け、『すべて正しい。生きるためには働かなければならない。働くとは社会で役割分担することであり、社会はみんなで作るもの』と語った。

また、「『やりがいのある仕事』とは、辛い、厳しいものであるが、苦しかったから報われる瞬間がある。苦勞が大きければ、やりがいも大きく、最後は、苦勞がやりがいに変わる」と説き、「努力した人はみんな成功するわけではないが、成功した人はみんな努力している。夢や目標をつくると、そこに手が届くようになる」と、努力することの大切さを熱く語った。

続いて、中学時代から続けているバスケットボールや、アナウンサーを目指していたこと、音楽活動で賞をとったことなど自身の経験を紹

介し、「自分のやりたいこと、将来のことを考えるべき。ただし、それを見つけることはそう簡単なことではない。常に考え続け、行動し続けることが大切。行動すれば、何かが生まれる」と諭した。

そして、人生を楽しくするための3つのコツとして、①迷ったらやる、②人のせいにならない、③何やってもうまくいくと考える(ポジティブシンキング)をあげ、「人生の選択に迷った時、どちらが正しいかは一生わからない。自分が選んだほうを正解にしていこう」と激励した。

最後に、「未来は今日一日の積み重ね。『今日から頑張る』、『毎日、少しずつ頑張る』ことが将来につながる。そして一生の友達(一緒に苦勞した人)を作るとともに、勉強、スポーツ、芸術や恋などに打ち込んでほしい」とエールを送り授業を締めくくった。



「行動すれば、何かが生まれる」と語る山野常務

第5回 富山県立魚津高等学校

10月4日(土)、市森友明氏(㈱新日本コンサルタント取締役社長)が富山県立魚津高等学校において、1学年200名を前に、「学びにおける2つのコツを知らうー『学習と職業』『学習と成果』の関係ー」と題して課外授業を行った。

市森社長は冒頭の自己紹介で自分のこれまでの人生を紹介し、「不遇になった時に諦めたり人のせいにしたりせず、そこで頑張ることで人生はずいぶん変わってくる。不遇を成長のチャンスだと捉えてほしい」と熱く語った。

今回のテーマである「学習と職業」の関係について、学習には「さまざまな職業の基礎となる知識を学ぶ(実用学の基礎になる)ため」、「大学進学や就職試験に合格する(次のステップに進む)ため」という2つの役割があると語り、「よく学習することで将来的に職業の選択範囲が広がる。もし現在なりたい職業のイメージができなくても、今勉強をしておけば将来のチャンスが広がる」とアドバイスした。

また、「学習と成果」の関係について、松岡

修造氏の言葉「100回叩けば突破できる壁があっても、99回であきらめてしまう人がいる。その人は今までの努力やかけてきた時間が無駄に終わってしまう」を紹介。努力してもなかなか結果のでない時期もあるが、「成長の壁」を乗り越えたら(ブレイクスルー)突然理解できる時が来て勉強が楽しくなる。それを信じて地道に勉強やスポーツに取り組んでほしいと語った。

そして、日本の経済成長が停滞している事実を説明し、私たち一人一人がしっかり働いて、生産性を上げ、経済活動をしていくことで、将来の日本を支えていく役割があることを認識してほしいと呼び掛けた。

最後に、「努力は幸福を手に入れる手段ではなく、努力そのものが幸福を与えてくれる」というトルストイの言葉を紹介して授業を締めくくった。



「学習すること」の意義を語る市森社長

第6回 富山市立和合中学校

11月6日(木)、林和夫氏(朝日建設(株)取締役社長)が富山市立和合中学校において、全学年396名を前に、「生きること、学ぶこと、働くこと」と題して課外授業を行った。

林社長は、まず、自身の介護経験のなかで看護師から言われた「人間が生きることには必ず意味がある」という言葉に感銘を受けたことを紹介し、「命は自分が使える時間である。ただ生きるのではなく、どう生きるかが大切」と命の尊厳・生きることの大切さを語り、「いただきます」とは「動物や植物の『命を』いただきます」のことでありと述べた。

次に、「人は一人では生きてはいけない。人は支え合って生きている」とし、社会性を身につけることの重要性を説いた。

続けて、「能力は才能×経験×意欲×考え方の掛け算であるが、どれが一番大事だと思うか」と生徒に問いかけ、イチロー選手の「結果も大

事だけど、プロセスのほうが大切」という言葉を引用しながら、プラス思考の考え方が最も重要であると語った。

また、「建設工事を通じて世の中に役に立つ」ことが自身の理念・夢であることを紹介するとともに、「働くことは端(周りの人)が楽になること」と説明し、「働くのは自分のためではなく、人や地域社会のために役立つこと」、「給料をもらって働く」のではなく、「働いて給料をもらう」と力説した。

最後に、「『袖擦り合うも多生の縁』というが、今回、講師としてみなさんにお会いしたことも何かの縁。縁があつてみなさんに話をする機会をいただいたことに感謝します」と語り、授業を締めくくった。



「能力で大事な要素は何?」と問いかける林社長

第7回 砺波市立出町中学校

12月3日(木)、林和夫氏(朝日建設(株)取締役社長)が砺波市立出町中学校において、1学年258名を前に、「生きること、学ぶこと、働くこと」と題して課外授業を行った。

林社長は、まず、東日本大震災で多くの尊い命が失われたこと、また、聖路加国際病院名誉院長である日野原重明氏の「命は自分が使える時間である。ただ生きるのではなく、どう生きるかが大切。人のために、有意義に自分の命を使う」との言葉や、自身の介護経験のなかで看護師から言われた「人間が生きることには必ず意味がある」という言葉に感銘を受けたことを紹介しながら、命の尊厳・生きることの大切さを語った。

次に、「人間の能力で最も大切なものは何か」と生徒に問いかけ、イチロー選手の「結果も大事だけど、プロセスのほうが大切」という言葉を引用しながら、プラス思考の考え方が最も重要であると語った。

また、「働くことは端(周りの人)が楽になること」と説明し、「働くのは自分のためではなく、人や地域社会のために役立つこと」、「給料をもらって働く」のではなく、「働いて給料をもらう」と力説し、「建設工事を通じて世の中に役に立つ」ことが自身の理念・夢であることを紹介した。

最後に、DREAMS COME TRUEの曲「何度でも」を流しながら、「気の持ち方次第で困難は乗り越えられる。限界を作らずに挑戦してほしい」とエールを送り、授業を締めくくった。

講演後、生徒代表から「命・生きることの大切を学んだ。これからの毎日を有意義に過ごしたい。今日学んだことを、来年の『14歳の挑戦』で生かしたい」と謝辞があった。



生徒代表から謝辞を受ける林社長

第8回 黒部市立生地小学校

3月6日(金)、中尾哲雄氏(株)インテック最高顧問)が黒部市立生地小学校において、6学年23名を前に、「いつも夢をもって 一生涯の思い出など」と題して課外授業を行った。

中尾最高顧問は、まず、小学校2年生の頃、妹と犀潟駅で汽車を待ちながら途方に暮れているときに見知らぬ女性からおにぎりをもたらしたことを紹介し、お礼をすること、感謝の気持ちを伝えることの大切さを伝えるとともに、「人の役に立つことを通してもお返しができる」と語った。

続いて、自身の野球少年時代の体験を紹介し、「感動、感激の積み重ねが人生を豊かにする」と熱く語った。

さらに、「これまで、外交官や先生、経営者などいろんな夢を持ってきたが、今も小説家に

なる夢がある。あきらめてはいけない」と述べ、いくつになっても夢や目標を持ちつづけることの大切さを訴えるとともに、「母校や家族、ふるさとなど自分の根になるもの『心のよりどころ』を作り、それを大切にしてほしい」と語った。

最後に、高校時代の恩師からいただいた英語のメッセージを子どもたちと一緒に翻訳しながら、「夢を持っている人は、星のように輝いて見える。希望は人を大きくし、成長させる」「みなさんが夢や希望を持って大きく羽ばたき、将来、社会に役立つ人になることを期待する」とエールを送り、授業を終えた。



「夢を持つ人は輝いて見える」と語る中尾最高顧問

第9回 富山県立呉羽高等学校

3月6日(金)、伊藤栄氏(日本銀行富山事務所長)が富山県立呉羽高等学校において、1学年190名を前に、「経済の仕組みについて知ろう!」と題して課外授業を行った。

伊藤所長は冒頭、「景気の意味や財政・金融政策について知ることで、新聞の経済欄が理解できるようになるし、将来どんな仕事に進んでも役立つ知識となる」と語り授業をスタートした。「景気が良い・悪い」とはどういうことかを教えるため、物価とお金を人間の体温と血液の関係に例えたり、GDPの考え方を鱒寿司が原材料からお客さまに買われるまでの流れの中で説明するなど、経済学の初心者にもイメージできるように解説。生徒は興味深げに話に聴き入った。

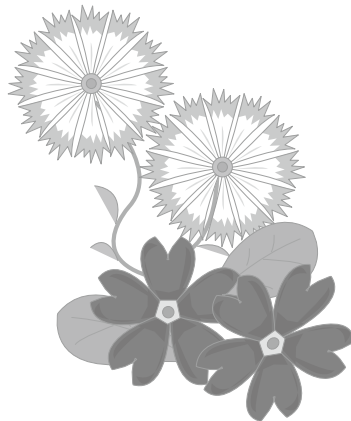
また、今日的な問題として人口減少に伴う日

本経済の課題や地方の抱える問題についても触れ、富山県が今後発展していくためには伝統の継承と新陳代謝で富山にしかない強み・魅力を作り上げ、若者が富山でチャレンジし、活躍できる環境作りをする必要があると熱く語った。

最後に、全体を見渡す「鳥の目」、一つ一つを細かく見る「虫の目」、そして物事の流れをしっかりと見極める「魚の目」という3つの視点で物事を見ることの大切さや、近江商人の「三方よし」の考え方にもみられる他者への思いやりの大切さについて説明し、生徒たちにエールを送り講演を締めくくった。



「経済を知ると新聞の経済欄が理解できる」と語る伊藤所長



教員対象の講演

夢・チャレンジ精神を持って 一大橋元教育問題委員長が教頭会で講演—

5月16日(金)、富山県立魚津高等学校で開催された「新川地区高等学校教頭会研修会」において、大橋聡司氏(大高建設(株)取締役社長)が「企業が学校教育に望むこと」と題して、新川地区の高等学校教頭約20名を対象に講演した。

大橋社長は、まず、課外授業講師派遣制度について、各地経済同友会から高い評価を得ていることを紹介するとともに、「人生の先輩としての経験談や働くことの意義などを伝える良い機会であり、家庭教育や学校教育と連携して、『行動する同友会』としてしっかり支援していきたい」と語った。

次に、これまで4回実施された海外教育事情視察全てに参加したことに触れ、現任教員らとともに訪問した国々の教育の実情や特長、日本との違いについて丁寧に説明した。

一方、企業活動においては、学校では学べない「お客様に対する感謝の気持ち」や「お互いに助け合う精神」などを養う「人材育成」を通じて社会貢献していることを紹介した。

このなかで、建設業からの新分野進出として事業展開したレストラン事業の経営が失敗したことに触れ、「失敗したのには原因がある。原因を徹底検証し、課題をクリアすれば、次回は必ず失敗しない」と語り、失敗を恐れずに再チャレンジすることの重要性を説いた。

最後に、「資源のない日本がこれから発展していくためには、『やりたいことに困難があっても果敢に挑戦する精神を持つこと』、『人間にはいくつになっても可能性や夢があること』を子供たちに伝えたい」と力説し、講演を締めくくった。

講演後、主催者から『「チャレンジ精神を持つ子供たちを育ててほしい』との宿題をいただいた。学校現場においても一生懸命に考えていきたい』との発言があった。



子どもたちの可能性を伸ばしてほしい 一大橋元教育問題委員長が講演—

8月25日(月)、新川学びの森天神山交流館で開催された「魚津市学校運営研修会」において、大橋聡司氏(大高建設(株)取締役社長)が「企業が学校教育に望むこと」と題して、魚津市内の小中学校教員約80名を対象に講演した。

大橋社長は、まず、「教育の基本は家庭にある」とし、「企業経営者として、従業員が家庭での教育をしっかり行えるように、働く環境を整えることが大切」と語った。

続いて、「働く」とは「人が動く」と書くが、意味は「端」が「楽になる」ことであり、「働くことは生活の糧であるだけでなく、人生を価値あるものにするための営みである」と説いた。

次に、これまで4回実施された海外教育事情視察について、「狭い範囲での仕事になりがちな教員にとって、視野や見聞を広める良い機会である」と、その意義を説明するとともに、訪問した国々の教育の実情や特長、日本との違いについて丁寧に紹介した。

一方、社業においては、周りの全てに感謝す

る「存在感謝」の理念のもと、学校では学べない「お客様に対する感謝の気持ち」や「お互いに助け合う精神」などを養う「人材育成」を使命として社会に貢献していることを熱く語った。

最後に、「諸外国に比べ、今の日本の子どもたちは『将来、偉くなりたい』と考える割合や、『自分の参加で社会が変わる』と考える割合が圧倒的に低く心配している。また、経済のグローバル化が進み、上司や社長が外国人といったことも普通になる時代が来る。子どもたちには『自分で考え、自分の言葉で喋り、相手に伝えること』が自分の成長につながることを伝えたい。また、先生方は、無限の可能性を持つ子どもたちを大きく成長させてほしい」と力説し、講演を締めくくった。



人財育成を通じて社会に貢献 —大橋元教育問題委員長が講演—

10月10日(金)、富山県総合教育センターで開催された「富山県総合教育センター所員研修会」において、大橋聡司氏(大高建設(株)取締役社長)が「企業は人なり」と題して、同センターの所員56名を対象に講演した。

大橋社長は、まず、「働く」とは「人が動く」と書くが、意味は「傍(はた)」が「楽になる」ことであり、「働くことは単に生活の糧であるだけでなく、社会に役立つこと・貢献することであり、人生をより豊かに価値あるものにするための営みである」と語った。

次に、経済のグローバル化が地方の中小企業にも浸透し、今後は、海外の人と一緒に働く機会や競争の場がますます増えていくことを説明するとともに、「諸外国に比べ、今の日本の子どもたちは『将来、偉くなりたい』と考える割合や、『自分の参加で社会が変わる』と考える割合が圧倒的に低い」と、ハングリー精神に欠ける子どもたちの現状を紹介した。

一方、社業においては、周りの全てに感謝す

る「存在感謝」の理念のもと、「お客様に対する感謝の気持ち」や「お互いに助け合う精神」などを養う「人財育成」を使命として社会に貢献していることを熱く語った。

最後に、「富山県は教育県であり、子どもたちの人間力を高める教育を通じて社会に貢献できる人材を育成している。我々経済人としても学校教育に期待をしており、引き続き、教育界との連携協力を図りたい」と述べ、講演を締めくくった。

講演後、主催者から「人間の根本に関わってくるような次元で誇らしい教育を受けたと、将来生徒が思えるような教育を目指して、心新たに組み組んでいきたい」と謝辞があった。



「母校」や「ふるさと」を大切に —中尾特別顧問が富山市小学校教頭会で講演—



と題して、富山市内の小学校教頭約70名を対象に講演した。

まず、県教育委員長代理や小中高校での課外授業、大学の客員教授を務めたことなど自身の教育界との関わりを紹介し、『学校』への強い思いや『教師になりたかった』ことを語った。

続いて、学校や教師を取り巻く環境に触れ、「国が目指す『地方創生』は、『教育創成』『教育再生』でもある。社会全体で教師を支えていかなければならない」と述べた。

さらに、『やらなければならないこと』と『やりたいこと』は別。皆さんには、『やりたいこと』

を見つけていただきたい。また、どうしたら、先輩たちが持っていた『気品』『風格』『見識』を身につけることができるか、勉強し、『心香る人』『魅力ある人』になっていただきたい」と熱く語った。

また、社業の紹介のなかで、「『創造』は異質なものの『組み合わせ』である。違った分野に興味を深め、視野を広めることが大切」と説いた。

最後に、恩師の『希望は遠い星の光。うつむく者には見えない』との言葉を紹介し、「心の拠りどころ、自分が存在する根拠として『母校』や『ふるさと』を作っていくことが皆さんの役割である」、「師弟の関係が輝く学校・社会を作っていただきたい」とエールを送り、講演を締めくくった。

